

-----

13番 中谷治之議員

-----

議長（中西 康雄君）

通告順5番 中谷治之議員の発言を許可します。

-----

13番（中谷 治之君）

中谷治之でございます。私は第三セクターの経営、地域医療の2問にわたりまして、ただいまから質問をいたしたいと思えます。

最初に、第三セクターの経営ついて伺います。地方分権改革が推進される中、財政規律の強化を積極的に図っていくことが求められております。財政の健全化に関する法律が全面的に施行されたことを踏まえ、6月に総務省より第三セクター等の抜本的改革の推進について、通知されたところであります。指針は採算性を分析したうえで、問題があれば本年度から5年間廃止などの抜本処理を集中的に行うよう求めるものであります。

総務省の07年度末時点の調査で、三セクと3公社をあわせた約全国で7,600社の35%が赤字、財政悪化の判定に三セクの財政状況も算入されるため、深刻な影響を及ぼす恐れがあるとしております。

以下、総務省の指針に沿い、現状はどうなっているか、まず決算上は黒字でも補助金を除くと赤字なるものはないか、第1点であります。

2点目は、採算性を分析したところ問題はないのか、2点目であります。

3点目は、今後どのように対処されるか、まず3点お伺いをいたします。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

町長（尾上 武義君）

それでは、中谷議員の第三セクターの経営についてお答えをいたします。

まず1点目の決算上についてでございますが、本町には株式会社フォレストファイターズ、株式会社エム・エス・ピー、株式会社宮川物産、奥伊勢フォレストピアを運営する株式会社宮川観光振興公社、道の駅奥伊勢おおだい、そして奥伊勢パーキングエリアの営業施設を運営します株式会社奥伊勢ハイウェイパークの6つの第三セクターがございます。

これらの施設は地域情報発信及び活性化拠点施設で、地域住民の就労の場でもございます。それぞれの第三セクターが経営方針を定め、現場スタッフが一致団結して健全運営に努めているところでございます。先期の経営状況、昨年の期でございますが、経営状況は世界的な経済不況により個人消費が低迷し、大変厳しい状況であります。道の駅奥伊勢おおだい株式会社は総売上3億3,900万円余、そして地代家賃として910万円を町に納めておりますが、純利益68万3,000円、株式会社エム・エス・ピーにつきましては売上が4億1,698万9,000円、純利益として1,070万1,000円、株式会社フォレストファイターズは売上が7,291万7,000円で、利益が1,739万8,000円、宮川物産は売上4,305万9,000円で、利益が101万5,000円の黒字となっておりますが、株式会社宮川観光振興公社、そして奥伊勢ハイウェイパークの2社が赤字決算となっております。

この宮川観光振興公社は、過去最低の1億7,043万3,000円の売上でございますが、地代家賃として1,430万2,000円を町に納めておりますが、経常損失が、1,825万2,000円でございますが、損失分をこの9月議会で経営安定補助金として補正予算に計上させていただいております。この奥伊勢ハイウェイパークは本年2月5日オープンでございますが、約2ヶ月間の決算でございますが、440万3,000円の純損失となっております。しかし、この損失は開業経費にかかるものでして、それらを除くと収支トントンという状況でございます。

2点目の採算性を分析したうえ、問題はないのかということに対しましては、これ宮川観光振興公社の場合、16年の災害を境にして売上高が低迷をしております。要因といたしましては、ピーク時の平成13年度の売上が2億3,200万円余がございましたんですが、利用人数も13万7,810人ということであったわけですが、20年度は売上1億7,000万円余、あるいは利用人数で9万6,354人ということで、売上6,100万円強の減少がございます。利用人数でも4万1,000人強の減少と、こうなっているところでございます。利用客をいかに今後増やしていくかを、早急に対処していかねばな

らない、こういう状況でございます。

また、奥伊勢ハイウェイパークにつきましては、先期は物品のみの借入額にあったにもかかわらず、当期の目標でありました1,645万6,000円を大幅に上回る2,017万3,000円の売上がございました。初期投資も重なりまして赤字となっておりますが、今期は利幅の高い飲食の提供により、売上を高めていく経営方針でございます。

3点目の今後どのように対処していくのかということでございますが、まず初めに宮川観光振興公社では、昼食バイキング、あるいは結婚式、法事などによりまして、地元住民の利用率を上げるとともに、東員町への優待カードの推進を行い、利用者の増加を図るとともに、運営面では人件費、そして仕入れ面の改善、また食事の改善、そして地元の方の協力なり、森の国工場の充実を図る。そういうことで新たな、また環境協会との連携もございます。そういうことで改善策を検討していきたいなところだと思っています。その中のやはり利用料金の改善と、考慮ということも必要になってくるだろうというふうに思っているところでございます。

奥伊勢ハイウェイパークにつきましては、特色のあるパーキングエリアを目指したいと、こう思っております。新たな販売商品の取り扱い、そして開発もございますが、利幅の高い飲食の提供によりまして、売上を高めるということも大事なと思っておりますが、紀勢自動車道の利用状況が土日、祝日に非常に利用が多いという観光性の高い路線でありますことから、野外テントの販売等も行って、より一層収益の向上に向けて取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご理解をお願いし答弁とさせていただきます。

-----  
議長（中西 康雄君）

中谷議員。

-----  
13番（中谷 治之君）

最近スタートいたしましたハイウェイパーク、これはスタートしたばかりで隣の大紀町との組合立みたいな形になっておりますので、少し除いていきたいと思っております。

あと6つにつきましてはの財務状況、町長から今ご答弁をいただいたところでありますけれども、ほ

とんど黒字の状況にあるのではないかなと、私はそう評価を申し上げておるところであります。世界的な同時不況、かつてない厳しいこの経済情勢の中です、関係の皆さんは大変な努力をされて、それぞれ頑張っていらっしゃるのだな、この報告書の財務係数も見せていただいても、そのように評価を申し上げておるところであります。

したがって、この総務省のいう指針に触れる状況はないという判断をされるんじゃないかなというふうに思うわけであります。中でも、ただいま答弁の中に町長触れられましたように、宮川観光公社、私はこの辺では俗に言うフォレストピアですか、それが親しまれておりますので、フォレストピアというふうに、ここではひとつお話を進めたほうが非常にわかりやすいんじゃないかと、かように思うわけです。それで大体20年度は1,800万円ほどの欠損だと、赤字ということでありますけれども、当面は基金のほうから入れますので、そういう深刻な状況にはないだろうというふうに判断していきたいと思います。16年災害、それから今触れたような世界同時不況と、入り込み客が減ってきたという状況は、これはもう世界中そういう状況でありますけど、大変な経営努力をされておるといふに私は思うわけあります。

そこでひとつ、ここは私も提案をさせていただくというふうなつもりです、ひとつ町長とも議論を申し上げたいと思うんですが、最近、多気から松阪まで日帰り温泉が3つもこう出てきたわけですが、大変な盛況ぶりです。日本の私を含めて大変風呂好きな国でしょう。旧飯高も含めて大変この日帰り温泉は盛況であると、採算ベースも十分あるというふうに伺っておるわけですが、フォレストピアの今回温泉のですね、いわゆるガス抜きですか、これをひとつ課題になっておったわけですが、今度のこの刺激策の中で3月までに改修をすると、ガスを抜くと、こういう状況が今のこの定例会にも関係予算が上がってますので、それは間違いなく整備をされると、こういう状況になっています。

そこでですね、私はフォレストピアにある、あの何と言うのでしょうかね、温泉、湯と言うのかね、お風呂と言うのかね、湯船と言うのでしょうかね、あの一帯の施設をですね、思い切ってひとつ改修、拡幅をひとつ検討したらどうか、こう思うんですね。かなり年数も経ってきておりますので、私も何度かあそこへ入れてもらいましたけれども、大変いいお湯です。あそこへひとつ改修拡幅を検討すべきじゃないかな、露天風呂まで拡充せえと申し上げませんが、もう少しこうあの中を変えてみたらどうかというふうに、ひとつ思うんですね。

それで支配人に聞きますと、「大変効能があって良質な温泉なんです。」「じゃもっとPRしたらどうや」、「いやもうPRもういっぱいなんです」と、そのようにお話を賜りましてですね、私は南

勢地区県下最近の流れは、日帰り温泉が盛んに任期があると、こういうふうな面から、一遍全面改修をですね、あそこをひとつ検討していただいたらどうだろうか、かようにひとつ提案も申し上げながら、町長のひとつご見解をお聞かせいただきたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

はい、ありがとうございます。入り込みもですね、できるころ、オープンするころには年間15万人というようなことで、期待をしておるんだということやったんですが、最大13万5、6千というようなことでございます。昨年度は10万人を切ってきたと、こういうようなことで、今の同時不況なりですね、いろんな要因があるにもかかわらず、10万人に割ってきたと、こういうことでございます。

ただ、今年はですね、なぜかもう4月からですね、かなり好調に推移をしております、各月前年対比ですが、前年低いんですからなんですけども、各月金額でも大体100万円前後伸びてきておるといふふうな、高速道路の影響もあったりとか、そういうようなこともあるのかなと、こう思っておるんですが、さらにその引き締めながらですね、対応するようには言っておるんですが、しかし、締めてみてどうなるのかな、要は今後秋から冬というそこら辺の入りが以前からやはり停滞気味でもございますんで、ここら辺の策といったようものは、もう少し打てないものかということで、もう10年強過ぎてきておるわけなんです、ヒットがなかなか出てきにくいという状況、またそういう体質のところといふふうなことでございますんで、今、中谷議員のほうから言われましたように、いわゆる温泉等の改良というんですか、あそこら辺もひとつ視野に入れるといふふうなことも必要なことかなといふふうに思っております。また取締役会等々でも議論もいただく中でですね、本当にこの入り込み増に向けて取り組めるのかどうかといふふうなことも含めてですね、考えてまいりたいといふふうに思っているところであります。

ただ、これは今のフォレストピアそのものの財務体質からいきますと、非常に厳しい状況でございますので、これ町からですね、何とかといふふうなことにもなるかなと思うんですが、そういう中で、

財源というようなものはですね、ほかの事業でもう目白押しの状態の中でありまして、それはええなといふうなことで、いいものがあれば本当に今回の経済対策のようなものが出てくればですね、またそれもあるのかなとは思いますが、十分そこら辺の効果的なもの、また投資効果というものがどういふうになるのか、十分に考えさせていただきたいなと、こう思っておりますので、貴重なご意見としてちょうだいをお願いしたいというふうに思います。ありがとうございます。

-----

議長（中西 康雄君）

中谷議員。

-----

13番（中谷 治之君）

この松阪地域のこの日帰り温泉の盛況といった状況もですね、ひとつ分析をしていただいて、拡張に向けた戦略はあるかどうかといった点についても、ひとつ分析を願いたいとかように思っています。源泉は十分あるとこういうことですので、大変良質といった点をですね、もっともっとPRすべきでないかと思います。

問題はこの燃料にも問題があるんだというふうなことを、支配人から聞いたことがあります。最近のこの技術がどんどん進歩しておりますので、バイオマスにしても、いわゆる太陽光発電にしても、十分検討する余地があるんじゃないかと、温泉といわゆるこのバイオマスといったようなものものですね、あそこで宣伝できるかどうか、総合的にもひとつ十分な検討を賜ってほしいというふうに思います。

さらに16年災害がやっとここへきてですね、完全な復旧に向けておるわけですが、まだ大台の頂上まで、まだ時間がかかりそうですけども、徐々に観光客が以前のような形で戻ってくるんじゃないかなというふうな期待をいたしております。自動車道がただになりますとですね、今度は行き過ぎてしまふかわかりませんが、段々とお客さんも増えてくるというふうな状況を、少し先を見てご検討をいただいたらどうかというふうに思っております。

で、町長がご答弁の中に触れていただきましたように、今やこの6つのセクターでですね、120名を超される方が就労していらっしゃるわけですから、当町は産業いろいろな面での低迷する中で、工

場誘致もならず、こういう形で120からの方が就労する場をですね、今日つくり上げてきたということですね、大きな地域への力にもなっているのではないのでしょうか。地域貢献にやっと定着してきた。いかにこの先人の皆さんの努力と、地域の皆さんの協力支援があって、ここまで定着してきたんだろうというふうに思うわけでありませう。

さらに維持して発展させていくか、あわせて安定した雇用の創造、雇用が1人でも増えるという場に維持発展をさせていただかなくてはならないと思うわけでありませう。町長はリーダーとして常に町をリードしていただいていると、そのように評価いたしておりますが、やはりこのさらなる民間活動手法導入ということについては、常に追求をしていただかなくてはならないと思うんです。効率的で安定したものにどう追求するかをですね、私は姿勢として貫いていただきたいと思うわけでありませう。民間活力手法をいかに注入維持できるか、町長は現在代表取締役、社長に立ち、まさにトップリーダーでいらっしゃいます。最後一言その辺の所見を伺いたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

はい、ありがとうございます。行政ではできないところをですね、このような第三セクターというような形で、地域おこしということで取り組んできたところでございます。そういう中で、一定の成果というのは出ておるのではないかなと思うんですが、どの会社をとっても本当にもう二足わらじで私はやらんならんなというようなことで、大変なことになりますんで、いつか直江議員のほうから指摘も受けました。行政とその民間の会社との代表取締役というそのあり方について、法的にどうなんやということ指摘も受けたところでございます。

中には町長が地域の顔でおるわけなんやで、私らはセクターの相手としてね、私らはそこをやはり重きに置いておるんやと、もし町長が取締役代表に就かなかったら撤退もさせていただきますよというような、考え方もやはり潜在的にはあるという、そういうこともあるわけなんです、それはさておいて、やはり民間手法というのはこれ非常に大事なことだろうと思うんです。ただ、私とそのトッ

プで座っておるということについて、どうしてもその地域の皆さんも、行政という見方を当然するわけでございますので、ある意味それやむを得ん部分あるわけなんですけど、やはり1つの事例を申し上げますね、あの奥伊勢始まったときに、地域の皆さんはあそこで井を食わせと、うどんやら牛井やらいろんなものを食わせたらええやないかというようなことなんですけど、それは当時の村長さんに言うことだと思っんです。

ただ、今度は逆に社長として考えたときに、やはり今はもうフランス料理なんかもこう出しておりますけども、それは是非は別としても、やはりお客さん呼び込むには、その井で呼び込めるかよというふうな形で考えんならん。そこら辺のその二足わらじの大変さというようなこと、いろいろあるわけなんです。ですんで、地域の人に反するようなこともあるかもわかりませんし、そこら辺のですね、さじ加減というんですか、塩加減というんか、その加減が非常に難しい部分は当然でございます。

しかしながら、基本は会社運営というよりも、地域の活性化ということが、まず大前提でありますんで、そのうえで会社が黒字で回れば、もうこれに越したことはないということなんですけど、やはりそのどれだけそれぞれの会社が公益性というものを発揮してあるかという、これがもう大きな視点やと思っんです。ですんで、地域にどれだけ活力源をそのそれぞれの会社がもたらしておるんかと、もう1つの会社として汲々にしながら、自分とこの会社の儲けだけ考えておるんやったら、それはもう存在意義はないというふうに思っておりますが、それによって公益性は多くもたらされておるんでしたら、それは公的資金の導入もですね、あってもいいんじゃないかなというふうなことを、思っております。

今のところ公的資金の導入しながらですね、運営補助、フォレストピアなんか運営補助金出しておりますけども、あそこが稼いだものを基金として積んで、それで補助金出しておるので、全然もう皆さんの税金を一銭も使うておるわけではございませんし、7,960万円の資本金でございますが、これとでもですね、手をつけていない。ただ、貸借対照表見ると、約1,000万円ほど下がってきておるんですけど、そういうような状況で推移をしておるというふうなことではございまして、公益性を追求しながらもですね、また会社の黒字化も目指して、二兎を追うもの一兎も得ずということになるんかわかりませんが、そういう形で進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたしたいと思っんです。



中谷議員。

---

13 番（中谷 治之君）

3 回制限でございますので、次にまいります。

次に、地域医療について伺います。平成 16 年度に導入された新医師臨床研修制度の影響などで、医師不足と赤字で自治体病院は崩壊の危機に直面しております。総務省は本年度から 5 年間の改革プラン策定を求め、3 年以内の経営効率化を要請しているところであります。報徳病院を含め県内公立病院 13 のうち運営形態を自治体直営から見直す方針を示すなど、厳しい状況にあります。地域医療を維持できるか、多くの方々が大変心配されております。

報徳病院は、20 年 4 月から三瀬谷地区に 2 路線の患者送迎バス運行、土曜日午前中の診療、さらに年 4 回の病院だよりを発行するなど、新たな事業を展開し、健全経営に向け大変な努力をされておるところであります。したがって、報徳病院の現状をここでお伺いしたいと思っております。

次に、9 月 3 日の新聞に、「大台厚生病院経営難で公的支援要請、縮小、撤退も視野」大きく報道をされました。昭和 31 年開設以来、大台大紀両町の核を担ってきた病院が、消えるのではないかと心配の声が高まっております。状況をお伺いしたい。

次に、病院経営は非常に困難な状況にあります。医療崩壊の危機、地域医療を守れるか、将来像について町長のご見解を求めます。

---

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

---

町長（尾上 武義君）

それでは地域医療につきまして、お答えをいたします。大台町の医療につきましては、町内の開業医であります上瀬クリニック、高橋内科、積木整形外科、こやまクリニック、大杉谷診療所の 5 医院

が、町民の皆様のかかりつけ医として日々ご尽力を賜っております。

また、大台厚生病院と報徳病院は入院治療ができる有床病院として、開業医の皆さんと連携して大台町の皆様の健康をお守りいただいているところであります。また町内の医療機関で対応できない高度な医療が必要な場合は、2次、3次医療機関である三重大学をはじめ松阪市内、あるいは伊勢市内の医療機関と連携し、町民の皆様の安心安全を確保いただいております。

しかしながら、16年度に導入されました医師臨床研修制度などにより、全国的に地方の医師不足が深刻となる中で、町の基幹病院であります大台厚生病院、報徳病院でも医師の確保が難しくなり、整形外科や耳鼻咽喉科等の診療科の休止、廃止や、救急体制の崩壊等、地域医療の核としての役割を果たせなくなってきております。加えて医師不足と医療制度改革により病院経営も悪化し、多額の赤字を出してきております。

そうした厳しい医療情勢の中で、まず1点目の報徳病院の現状でございますが、報徳病院は現在一般病床30床のベットを有しております。常勤医師としては内科医3名と、週1回の診療ですが眼科医1名、整形外科医1名となっております。医師の減少につきましては、平成17年までは整形外科医が常勤で診療にあたっておりましたが、今では週1回となり、診療日の大幅な縮小を余儀なくされているところであります。また耳鼻咽喉科医につきましても、平成18年から医師が確保できず、休診となっている状況でございます。

また、建物につきましては、半分程度が昭和48年の建築でございます。法的な義務はないものの耐震化も考慮し、将来の医療のあるべき姿を考えると、近いうちに建て替えも視野に入れていくことが必要な状況になっております。なお、報徳病院における20年度の赤字額は、運営補助をしつつも約3,000万円となっております。

次に、2点目の大台厚生病院の状況についてでございますが、大台厚生病院のベット数は一般病床47床、療養病床48床、あわせて95床で運営されておりますが、大台厚生病院の医師不足につきましては、平成18年度8名おりました常勤の医師が、平成19年4月には外科医がいなくなる一方で、耳鼻咽喉科医が非常勤となりました。また同年7月には内科医が1名減員となり、平成21年6月末には院長である整形外科医が1名退職した結果、診察日を縮小せざるを得ない状況となっております。現在、大台厚生病院の常勤医師としては内科医2名、整形外科医2名の計4名でございます。

そのような医師不足の影響から、平成19年度あたりから病院の経営状況が悪化し、平成20年度では約2億2,000万円程度の赤字が発生しているようでございます。また建物につきましても半分程度が耐震に問題がございまして、建て替えが必要と考えているようです。そういった大台厚生病院の状況から、去る9月1日に、三重県厚生農業協同組合連合会、いわゆる厚生連から大台厚生病院が今後

とも大台地域で医療を提供していくために、当町と大紀町に支援の提案、要請がございました。その内容は、新病院建設のための資金援助、建設用地の無償提供、新病院の運営補助、並びに来年度から新病院建設までの運営補助となっております。

町といたしましても報徳病院への影響や、財政負担を考慮しながら大紀とも相談し、本年12月末までに支援に対する返事をする必要がございます。なお、厚生連は支援されない場合は、この大台厚生病院の規模縮小、あるいは事業の撤退も視野に入れているとのことでございます。

3点目の地域医療の将来像についてでございますが、高齢化の進行が著しい本地域においては、救急医療体制や休日診療体制、とりわけ内科、整形外科等の診療体制を整備した基幹病院が必要であり、地域医療、特に過疎地域の医療を担う開業医の皆様との連携が必要かと考えております。具体的には現在の医師不足を解消し、経営の立て直しを図り、地域の医療ニーズに応えていくためには、どういった病院形態になるか検討をしなければなりません。

今後、三重大学医学部関係者の方々、そして三重県、松阪地区医師会、開業医の方々、厚生連及び大紀町の方々と協議をする一方、町民の皆様や町議会の皆様のご意見を賜り、大台町の将来にふさわしい病院づくりに取り組んでまいらねばなりませんので、ご理解とご協力をお願いし、答弁とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

-----

議長（中西 康雄君）

中谷議員。

-----

13番（中谷 治之君）

町長の答弁はですね、大変厳しい内容になっておるんじゃないかと思うんですね。厚生病院のほうの3日の新聞は、この地域の皆さんも何度も目をとおされたんじゃないでしょうか。おそらく病院が維持できるんだろうか、ひょっとしたら病院なくなるのじゃないだろうか、そういう不安ばっかだと思っわけです。

で、町長のご答弁のですね、報徳病院については改修の状況にもある。建て替えもしていかないかんなというようなことをですね、もう私としては今日初めてそういうお考えを伺ったわけですが、そ

ういう状況にも来ておると。

で、一方この紀勢地区の中核をなしてきた厚生病院、大変厳しい内容をですね、大台大紀両町に申し出ておると、こういう内容になっておるわけでありまして。この地域で医療を消してしまうということとはですな、大変なことになってくるんじゃないかな。今日も前段でも質問の中に出てまいしように、どんどん高齢化が進み過疎化が進展する中で、現実にも人口も少しずつ減っておると、しかし、医療が地域で保障されないという状況になったら、想像つかないような影響が出てくるんじゃないでしょうか。もう安心して住めないな、治療も受けられなくなってしまうのじゃないか、そういう安心安全をですね、奪ってしまうような懸念はないんだろうか。

どんな状況があってもですね、この地域医療だけは維持できるような形で、隣の大紀町とも今お話のあった形で知恵を絞っていかねばならないと、こう思うわけです。地域医療なくして私は地域はないというふうに思うわけです。果してこの病院を残せるかどうか、大変厳しい状況にあると思うんです。

そこで具体的に、町長に率直にお伺いしたいのは、やはりこのJA三重厚生連から両町に提案された中身であります。大変厳しいんじゃないかと思うんですね。年間2億円程度の赤字を補てんする。病院建て替えにかかる建築資金の全面的な支援だと、全面的支援とは全部建ててくださいと、こう理解をしたいと思います。さらに建築用地の確保ということになりますと、まさに公設に等しい、厳しい内容だというふうに私はとらえております。果してこの両町の財政状況からして、この巨額の負担に本当に堪えられるだろうか、そのところをですね、現時点で率直にひとつ町長から答弁をいただきたいと、こう思うわけでありまして。

ちなみに、三重県のこの財政状況はもう1兆円を超しまして、償還額だけで年間もう900億円を超しまして1,000億円になっておるということで、大変な厳しい財政状況であります。県立病院が4つありますけれども、そのうちもう改革の中でですね、志摩病院は管理者指定、一志病院は民間に譲渡すると、こういう方向で今改革プロジェクトの中で今検討、地域と相談をされておるようですけども、もう県もですね、どんどん放してしまうと、こういう選択を選んでおるわけでありまして。地域の皆さんにとっては、もう堪えられんほど厳しい対応じゃないか、地域から医療を奪ってしまうと、こういうふうな状況にあると思います。

ちょっと余談ですけども、発電施設も売ってしまう。中電さんに買うてもらおうやと、こんなふうなことですね、もう県自体がですね、1兆円を超す赤字を抱えて、もうどうにもならない状況にきておるんじゃないかと思うんです。

そこで今出てきておりますのが、国のいわゆる支援だとか思うんですね。これも町長がまだ触れて

いらっしゃいませんけれども、100億円国が用意すると、これを地域再生計画の基金ということで、すでに6月県議会で知事は「厳しい状況である。県として中長期的な観点に立って戦略的な計画を作成したい」と、こう力強く述べてみえるのが、いわゆるこの国の当面の刺激策である最大100億円の基金を用意して、再生を図るということだということなんです。

果してこの県の知事さんの大変頼もしい答弁でありますけれども、地域再生ができるのかどうか、これも大変難しいことだと思うんですね。それで私は、もう町長がかなり方向性を示されてきましたので、こういう県への支援を仰ぐというふうな方向の100億円基金といった方向性にも、もうすでにお考えを持っていらっしゃるのじゃないかと思しますので、その辺もひとつ伺いをしたいと、かように思います。

それからもう1点、もし地域医療の保障がなくなったら、どんな影響を及ぼすのか、その辺も簡単にひとつご整理を賜って、以上、ご回答をお願いしたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

まず、さきほどの答弁の中でですね、厚生連からの支援要請の中で、報徳病院この地域2万2,000人、大紀町含めて2万2,000人、そういう中で2つの病院が存在しているということの中で、1つの、単病院的に1つでやっていく必要があるだろうということございまして、そこら辺も含めてですね考えておかねばならないと、この医師の確保そのものがですね、非常に厳しい状況で推移していると、これを2つの病院でありますと、なかなかそうはいかないということございまして、今後、成り立っていかないという、そういう側面を持ち合わせておるといことです。

したがって、これを再編していく必要があるのではないかと、こう思っているところでございまして、まずは大前提として、やはりその地域には医療というものが絶対必要であるということ、私は思っております。そういうことでこれらの確保ということには、もう最大限の力を注いでいかなあかんということ思っているところでございます。

その厚生連からの具体的な要請でございますが、まずは用地を提供してください。そして現在の病院を全部建て替えてください。そしてこの平成21年度から発生してくる赤字部分、これを全部持ってくださいということでございます。で、新しく病院ができたとしましても、それ以後の赤字部分も全部持ってくださいと、こういうことでございます。先だっけの全員協議会でも少し申し上げたと思うんですが、私でも経営できるのかなというような、そういう内容でございます。そうはなかなか要請という形で、まず一発目そのようにきておるわけでございますが、この20年度の2億2,000万円の赤字、大紀町と折半しましても1億円強、とてもじゃないけど大台町では負担することは、もうこれできるわけではないと、ましてやこれからの先々、多難な状況の中です、未来永劫このような形で推移しますととんでもないことに、もう本体が潰れてしまうという状況になっていかなざるを得ないのではないかとこのことを思っております。

そのうえでですね、やはり基幹病院として1つの病院ということを設定していきますと、いろいろ選択肢はあると思うんです。大台厚生病院として存続するケースもあるでしょうし、あるいは報徳病院として存続していくという選択肢もあるでしょうし、いろんなケースは考えられると思うんですが、そういうような中で、何がいいのかなというようなことで、この12月末までにはですね、おおよその検討をつけていかにやらんと、こういうことでございます。

さきほど申し上げましたように、厚生連も含めた協議会の中です、どういうベストな形が出すことができるのかということを探っていかにやらんと。この間に町民の皆さん、そして議会の皆さんともよくよく相談しながらですね、対応を図っていかなければならないと、こういうようなことでございます。1つ建物建てるだけでも大変なことございまして、廣田議員の話の中でも25億円要るか30億円要るかわからんというような、巨額のもので出てくる。当然、借金というふうなこともせんとならんとしたら、それも後追わんならんとというようなことになりますんで、非常にそのいくら大紀、うちと両方と組んだとしてもですね、これ大変な財政支出が出てくる。もう本当にこう合併後10年経ったら交付税も減ってくる。

さきほどの暫定税率やないけど1億円ほど減るとかですね、いろんなもう多事多難なことが待ち受けておりますんで、そういうようなことの中で、その建て替えについてはですね、この地域医療再生基金というのが県に、この経済対策の関係で設けられております。ここにですね、どのような形になるかというようなことは何も言わずに、ひとつの再編する中で病院というものを整備していく必要があるということで、手は挙げております。

これでどのように、どこまでいけるのか、まだわかりませんが、今後の計画次第だと思うんですが、その計画に沿って対応もしていく必要性が、今後出てくるようなことでもございます。厚生連の整備

スケジュールというようなことで、今年中にですね、その協議会等も発足をさせて、そしてどのような形に持っていくのかというようなことで、来年1月から9月までは協議の中でとりまとめも行って、議会にも当然報告して、承認ももうていかなあかんというようなことなんです、22年の10月からですね、移転新築に向けた具体的な協議とか、存続に向けた最終合意と、23年4月からはですね、新病院の設計とか新病院での運用の検討とか建築準備、24年4月からは病院の建築を開始して、25年4月から新病院での事業開始すると、これはもう厚生連側の、サイドでの話なんです、こういうようなスケジュールでどうでしょうかということできております。

こういったものをすべてそのまま飲むのか飲まんのか、こちらのまた考えも当然ございますんで、そのとおりにいくわけではないわけですけど、しかし、将来の医療というものを考えたときにですね、この医者の不足、医師不足ということについてはですね、非常に重いものがございます。今のような状況の中で、本当にこう救急も含めてですね、もう報徳病院でも眼科医はおらんとか、耳鼻科がおらんとか、あるいはもう週に半日なんですね、その整形外科も、そういうような状況で推移をしておるということの中で、やはり抜本的に考えていかねばならんと思うんです。

平成14ごろにも報徳病院のあり方をめぐってですね、いろいろ議論したことがございますが、今のような状態に落ち着いてはおりますけども、それとても厳しい中で、やがては診療所みたいな形に持っていかなざるを得ないのかなというようなことも、その当時にはもう話がすでに出ておったようなことでもございますが、それにしてもやはり宮川地域としてのいろんなものも、昭和の初めから続いた報徳病院としての歴史もございまして、いろんなことが絡んでまいりますんで、そこら辺も重々頭の中へ入れながらですね、対応を図っていかねばならないというようなことで、非常に厳しい選択に迫られるようなことになろうかと思っております。的を得てようなことになったかどうかわかりませんが、以上でございます。よろしく申し上げます。

-----

議長（中西 康雄君）

中谷議員。

-----

13番（中谷 治之君）

医師不足は病院経営をですね、完全に赤字に追い込んでしまう。そういう状況はもう致し方ないんじゃないかな。尾鷲病院で産婦人科確保にですね、数千万円用意して婦人科を呼ぶというふうな状況も大きく報道されましたけれども、どれだけ手を尽くしても医師確保はできないと、こういう状況。大変な日本の医師制度になってしまったんだな、グチをこぼしたところで即できるものではありません。7年や8年先になってしまわないか。それじゃこの地域病院を維持できるのかと、こういうことですが、少なくとも2つの病院、理想なら2つとも残すということですが、町長とのご答弁をいただく中で、非常に難しいという判断はされるんじゃないでしょうか。

議論ほとんどしない段階で、そういう判断は慎んでいかなくてもなりませんけれども、極めて厳しい状況ということは、少しは理解、私もいたしております。聞こえてくる声はですね、2つの病院の存続はなかなかできんだろうといった声もあります。1つにせななかなか病院は生き残っていけないといった声も、巷でありますし、近くでも聞かせていただいております。それほど病院経営は厳しいと、こうなっております。

したがって、今、両病院にたくさんの方々が毎日治療を受けていらっしゃる、中には厚生病院に透析を打っていらっしゃる方々もいらっしゃいます。透析を打っていらっしゃる方が40何人もいらっしゃる。この方々もですね、松阪まで行きなさいというふうなことになるんだったら、どうなっていくんだろうか、大変なこ

とになるんじゃないか。地域維持のあわせてですね、何とかこの地域医療を残すという方向も最善のひとつ努力を尽くしていくべきだと思います。

選択肢は町長はあるというふうに断言をされます。これから両町と関係機関とそれぞれご協議に入るというふうなお話でありますけれども、どうぞひとつ地域安心して住める地域づくりを我々目指しておるわけですから、安心して住める地域をつくっていくには、医療なくして維持ができないと思います。近々の最重点課題として、町長は次期町長にも出るという意思表示をされておりますので、最重点課題としてのひとつ決意を持って、この問題をひとつあたっていただきたいと、かように思うわけであります。最後、ひとつご答弁をいただいて、私の質問を終わります。

議長（中西 康雄君）

尾上町長。



町長（尾上 武義君）

最重点課題であろうと思います。近いうちにその結論も出していかねばならんと、ズルズルと引っ張るようなことでもございませんし、厚生連からは満足にいかないような回答やったら規模縮小、あるいは撤退、もうこう事実上撤退ではないかなと思っておりますが、満足にいかないような回答やったら撤退をさせていただきます。こういうようなことであろうというふうに、私は理解をしております。

満足いくのかいかないのか、ぎりぎりの折衝もあるだろうと思いますし、いろんな方途を考えていかなあかんというふうに思っておりますので、しっかりと取り組んでいき、また議会のほうともご相談申し上げ、町民の皆さんにも報告し、いろんなご意見を賜っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

議長（中西 康雄君）

中谷議員の一般質問が終わりました。

議長（中西 康雄君）

しばらく休憩します。

再開は3時15分といたします。

（午後 3時 03分）

議長（中西 康雄君）

定刻となりましたので、休憩前に引き続きまして、一般質問を再開をいたします。

(午後 3時 15分)